

**1990年比 25% 削減義務問題**

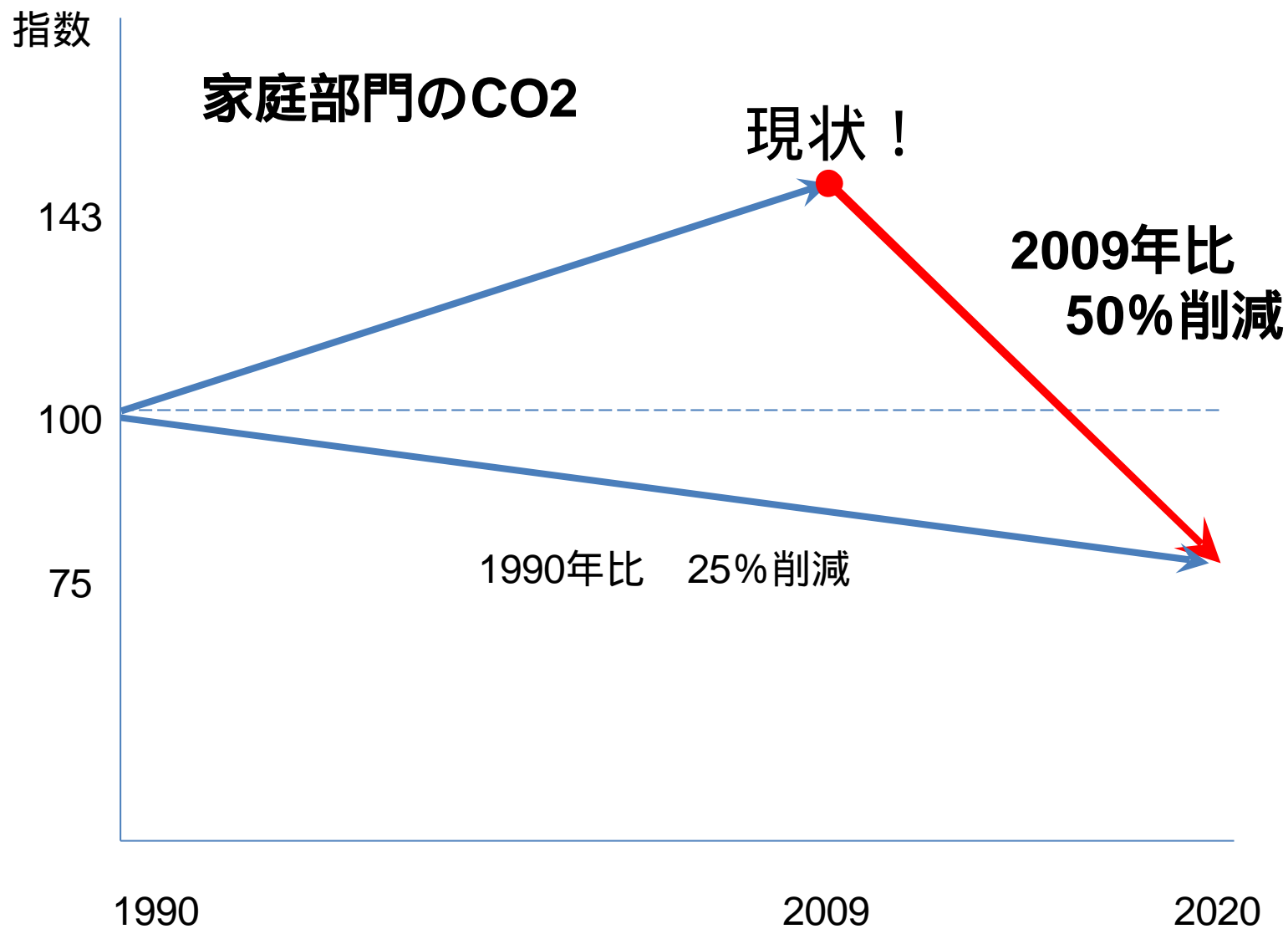
1990年 25%削減「目標」とは何か？

= 志の高い「努力目標」？

**NO!!**

= 達成しなければ罰金が科される  
国際的な「**法的義務**」

# 25%削減というのは、実質 ? %削減!



# 1990年比25%削減義務 3つの問題点

2009年9月 鳩山元総理の約束

現状

「主要国による意欲的な目標」が25%の**前提条件**

日本だけが突出した  
中期目標 = 不公平

「公平かつ実効的な枠組みの構築」が25%の**前提条件**

京都議定書  
延長の危険

25%削減の絵姿を具体的に国民に提示し、国民的理解を得る。

見えない削減の絵姿と  
国民負担

## 各国の目標値について(総括表)

- 主要排出国は、概ね、各国の目標値を公表。
- 先進国は排出削減総量を、途上国はBAU比若しくは原単位ベースで国別行動を約束。

	基準年	中期目標	90年比換算削減率	05年比換算削減率	IEA(90年比)	限界削減費用(ドル)
日本	1990	▲25% <sup>(※1)</sup>	▲25%	▲30%	▲10%	476
EU	1990	▲20%～▲30% <sup>(※1)</sup>	▲20%～▲30%	▲13%～▲24%	▲23%	48～135
米国	2005	▲17% <sup>(※2)</sup>	▲4% <sup>(米国の主張)</sup>	▲17%	▲3%	60
カナダ	2005	▲17% <sup>(※2)</sup>	+3%	▲17%	—	92
オーストラリア	2000	▲5%～▲25% <sup>(※1)</sup>	+13%～▲11%	▲10%～▲29%	—	46～92
ニュージーランド	1990	▲10%～▲20% <sup>(※1)</sup>	▲10%～▲20%	▲28%～▲36%	—	n.a.
ロシア	1990	▲15%～▲25% <sup>(※1)</sup>	▲15%～▲25%	+18%～+33%	▲27%	0
ブラジル	—	▲36.1%～▲38.9% (2020年時点BAU比)	—	▲23%	—	n.a.
韓国	—	▲30% (2020年時点BAU比)	—	▲4%	—	21
中国	2005	▲40%～▲45% (GDP原単位ベース)	2020年まで8%成長: 排出量は05年比1.9倍 2015年以降6%成長: 排出量は05年比1.7倍		▲47% (05年比)	0
インド	2005	▲20%～▲25% (GDP原単位ベース)	2015年まで7%成長、2015年以降6%成長: 排出量は05年比2.1倍		▲40% (05年比)	0未満

(注1) (※1)の付された各国の目標は、各国動向など前提付き。(※2)の付された各国の目標は、法案動向など前提付き。  
 (注2) 限界削減費用は、RITE試算。(注3) BAU比とは特段の対策のない自然体ケース(Business As Usual)

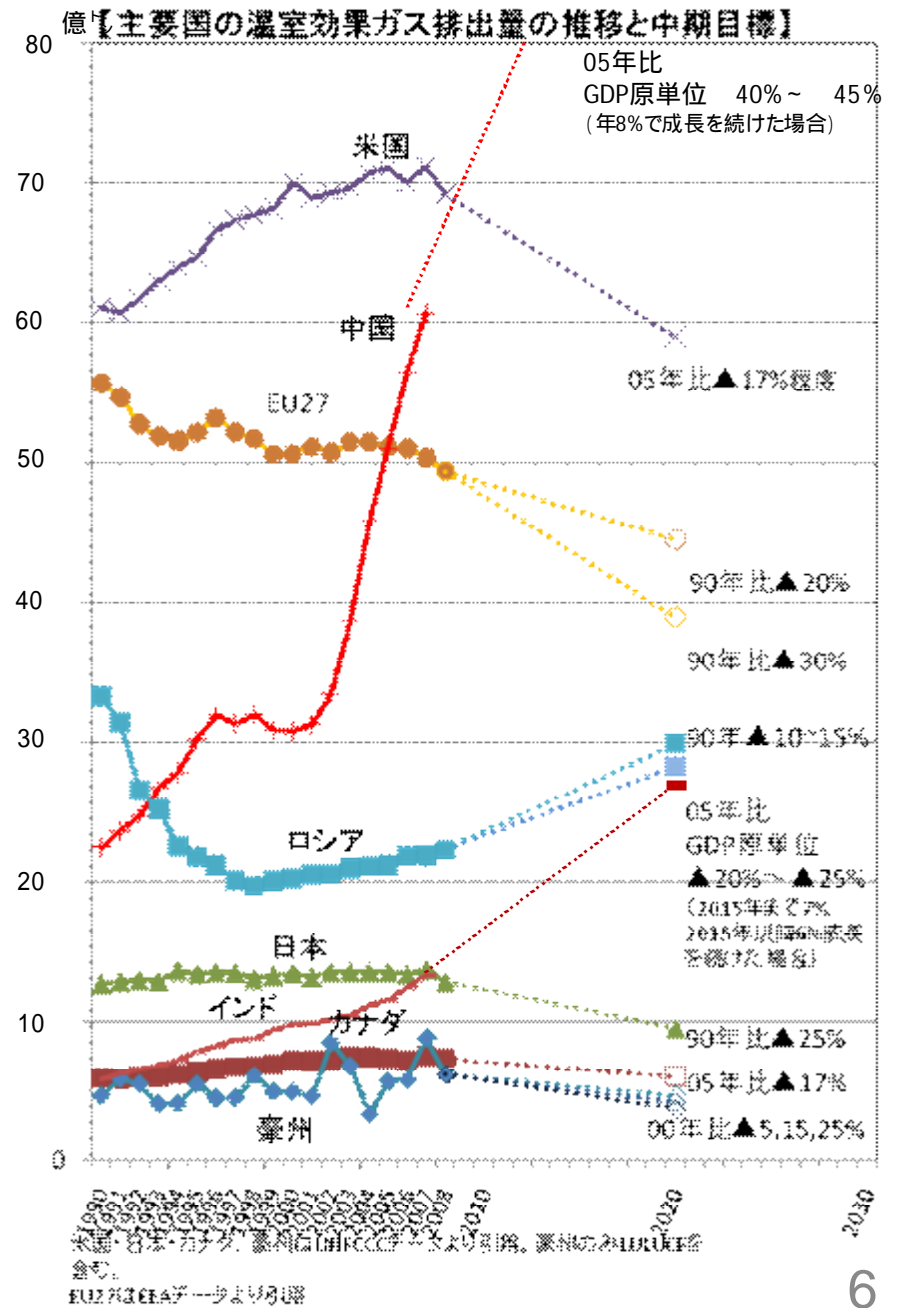


# 各国がコペンハーゲン合意に基づいて登録した目標値と排出動向について

**【コペンハーゲン合意に基づき、  
国連に登録された主要国の目標値】**

		中期目標	限界削減費用 (ドル)
日本	90年比	25% ( 1 )	476
EU	90年比	20% ~ 30% ( 1 )	48 ~ 135
米国	05年比	17% ( 2 ) ( 90年比 4%(米国の主張))	60
中国	05年比	40% ~ 45% ( GDP原単位ベース)	0
インド	05年比	20% ~ 25% ( GDP原単位ベース)	0未満

(注1) ( 1 )の付された各国の目標は、各国動向など前提付き。( 2 )の付された各国の目標は、法案動向など前提付き。  
 (注2) 限界削減費用は、RITE試算。 (注3) BAU比とは特段の対策のない自然体ケース (Business As Usual)





## (参考)主要国の気候変動対策①

中期目標: 2020年までの削減目標, 長期目標: 2050年までの削減目標, CA: コペンハーゲン合意に基づきUNFCCC事務局に提出した中期目標



米

- 中期目標: 約14%削減(2005年比, 2010年度予算教書), 約17%削減\*(CA)  
\*最終的な目標は今後制定される関連の国内法令に照らして同事務局に対し通報するとされている。
- 長期目標: 83%削減(2010年度予算教書)
- 下院では, 国全体の排出量を2005年比で2012年に3%, 2020年に20%, 2030年に42%, 2050年までに約83%削減するとの法案が通過。超党派上院議員が公表した法案では, 2005年比で2013年に4.75%, 2020年に17%, 2030年に42%, 2050年までに83%削減。この他に排出量取引やGHG排出削減目標を含まない法案も公表されたが, 提出を断念。



EU

- 中期目標: 20%/30%削減\*(1990年比, CA)  
\*他の先進各国が同等の排出削減にコミットし, 経済的に発展した途上国が責任と能力に応じた適切な貢献を行う等の条件が満たされれば30%削減に目標を引き上げ。
- 長期目標: 80~95%削減(1990年比)
- 2005年1月からEU排出量取引制度(EU-ETS)を運用。07年3月欧州理事会で, 2020年までに, ①温室効果ガス20%削減, ②再生可能エネルギーのシェア20%, ③エネルギー効率20%改善の目標を採択(本スタンスは, 直近2010年10月欧州環境省理事会でも変わらず)。①と②を実現するための気候変動エネルギーパッケージ(EU-ETS指令改正案, 再生可能エネルギー推進指令案等)が2009年6月に発効。



加

- 中期目標: 17%削減\*(2005年比, CA)  
\*今後制定される米国国内法案における米国の最終的な削減目標に沿うとの前提。
- 長期目標: 60~70%削減(2006年比)
- 2020年までに1990年比で25%, 2050年までに同80%削減達成を目的とした野党提出の「気候変動説明責任法案」が2010年5月に下院を通過し, 現在上院で審議中。

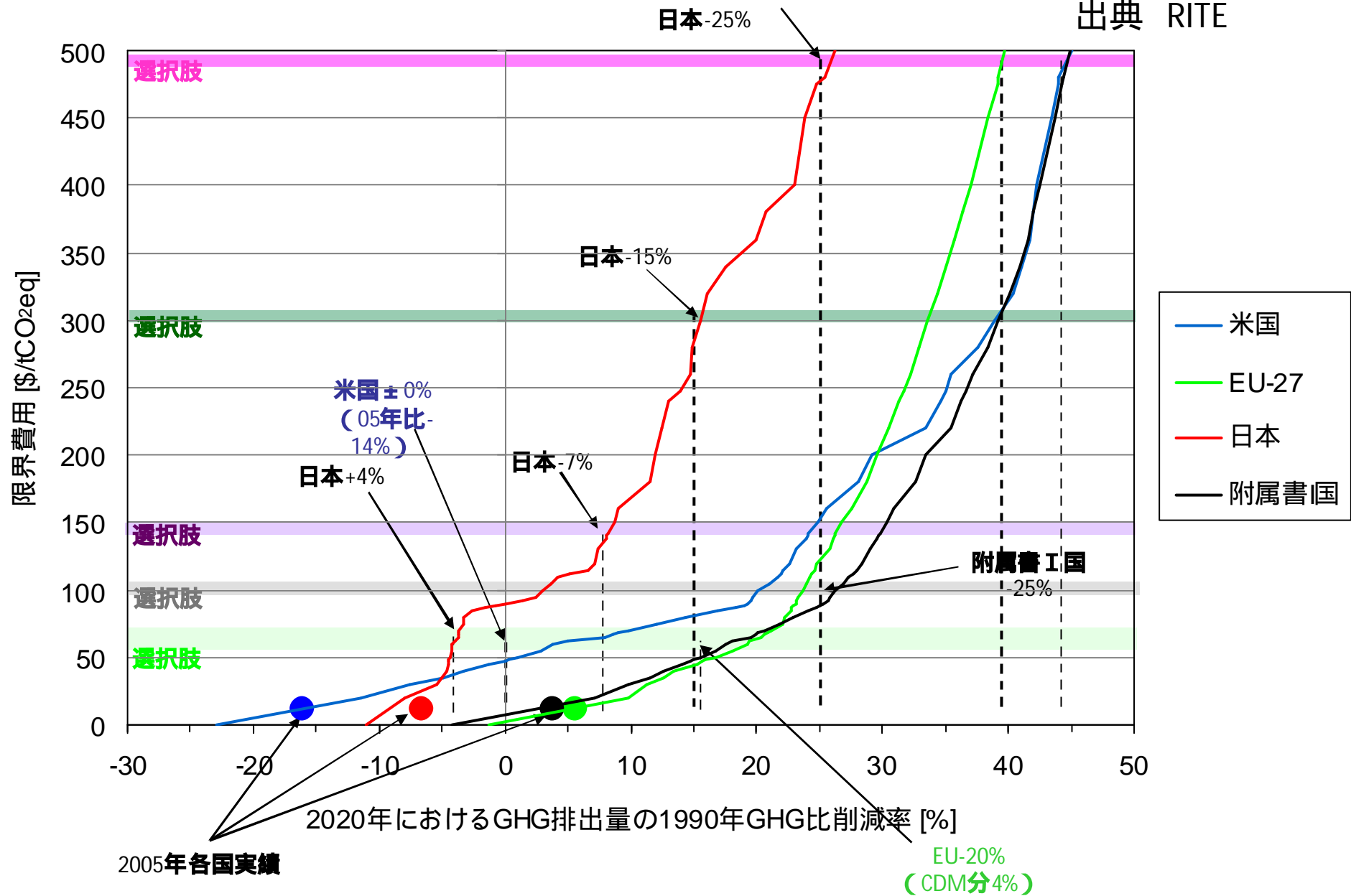


豪

- 中期目標: 最低でも5%/15%/25%削減\*(2000年比, CA)  
\*主要途上国が相当の排出抑制を約束し, かつ, 先進国が豪州と同等の排出削減を約束する場合には最大15%, 2050年までの450ppm濃度安定化目標に合意する場合には25%削減。
- 長期目標: 60%削減(2000年比)
- 2010年4月, 議会上院において審議中であった排出量取引制度法案について, 同制度の導入を2012年末以降に先送りすることを発表。

# 各国目標のコスト(限界削減費用)比較 = 「公平性」の基準

出典 RITE

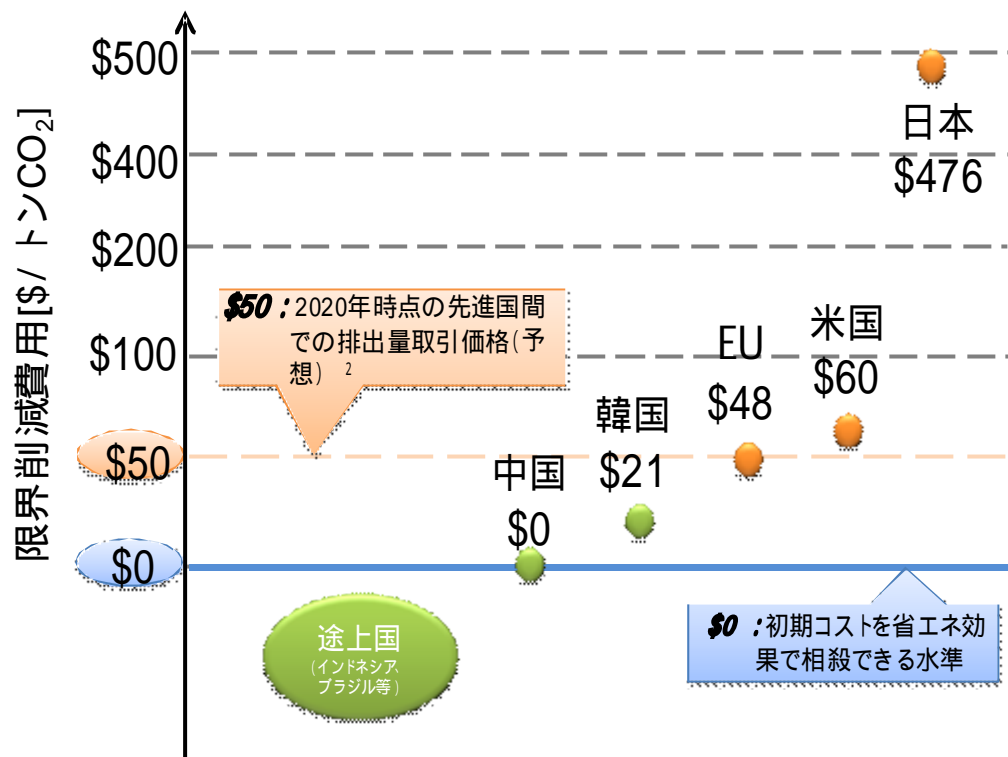




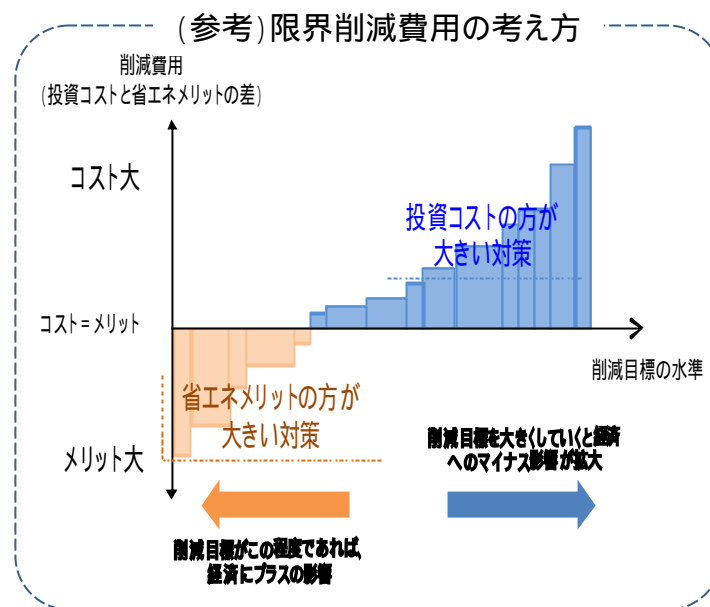
## 各国削減目標の国際公平性（限界削減費用の視点から）

- 地球上どこで対策を実施しても、地球温暖化問題への寄与は同じ。
- 欧米がだいたい50ドル前後の対策までやれば達成できる目標値を掲げているのに対し、我が国目標値は、476ドルと圧倒的にコストの高い対策まで実施することが必要となる。
- 他方、途上国が登録した目標は、投資コストよりメリットの方が上回る対策で達成可能な目標（限界削減費用がマイナス）。途上国には、費用対効果が高い対策が多く残されている。

【限界削減費用からみた各国の目標値比較】



1 限界削減費用: 追加的にCO<sub>2</sub>を1トン削減する努力に要する費用(\$/トンCO<sub>2</sub>)。RITE試算。  
 2 IEA (国際エネルギー機関) の450ppm安定化シナリオ(2050年までに世界半減) による。



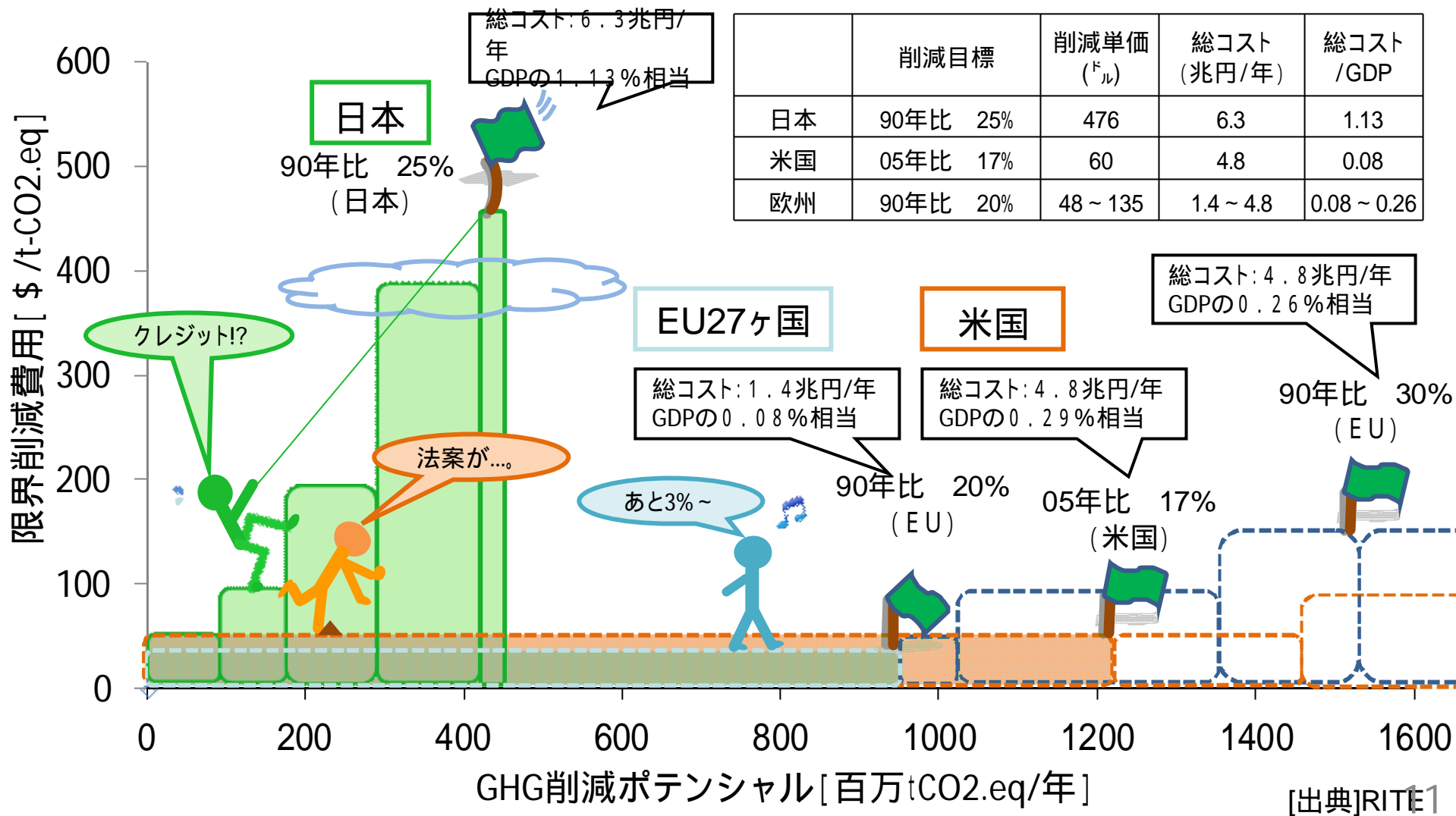
各国削減目標の国際公平性の評価②(各研究機関による分析)

	日本	EU	米国	備考
国際エネルギー機関 (IEA)	▲10%	▲23%	▲3%	WEO 2009, 450ppm安定化シナリオ
地球環境産業技術研 究所(RITE)	▲10%	▲28%	▲26%	附属書I国全体で▲31% 限界削減費用均等化
オランダ環境評価庁 (PBL)	▲5~ ▲10%	▲30~ ▲40%	▲10~ ▲20%	附属書I国全体で▲30% 限界削減費用均等化
国際応用システム分析 研究所 (IIASA)	▲8%	▲27%	▲14%	附属書I国全体で▲25% 限界削減費用均等化
各国の削減目標 (2020年、90年比)	▲25%	▲20%~ ▲30%	▲4%相当 (2005年比 ▲17%)	コペンハーゲン合意後

(出所)各研究機関の資料より作成

## 日米欧の削減目標達成時の総コスト比較

- 日本は削減ポテンシャルが小さく、他国より削減単価が高い。
- 総コストで比較しても、日本は、米国の1.3倍、欧州の4倍。
- GDP比総コストは、日本は、米国の約4倍、欧州の約1.4倍。





## 日本・EUの現在の排出実績と目標の関係

- EUの20%目標は、実質あと▲3%弱で達成可能。
- 日本の25%目標は、実質90年比▲27%程度に相当。



EU : ▲20%目標

2009年の排出実績  
90年比▲約17.4%

90年比  
2.6%

1990年度時点の排出実績

90年比▲20%

あと僅か90年比約3%弱で達成。



日本 : ▲25%目標

90年比  
1.6%

90年比▲25%

2008年度時点の排出実績

実質的には90年比約27%の削減が必要

# 中国の目標値について

年8%の経済成長を続けた場合、排出総量は05年比1.9倍。  
 2015年以降の成長が年6%に鈍化した場合、排出総量は05年比で1.7倍。  
 目標達成の限界削減費用は\$ 0程度(利益と費用がちょうどバランスする水準)。

中国の排出量の見通し (2005年 = 1 とした場合)

